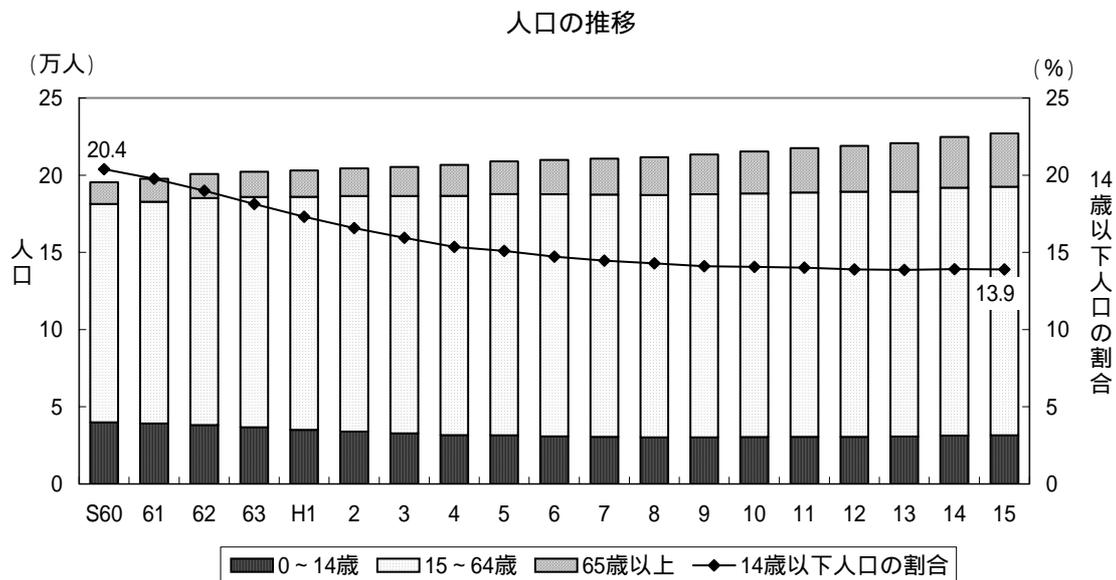


## 府中市の子どもを取り巻く現状と課題

## 1. 少子化傾向に逆行する児童人口の増加

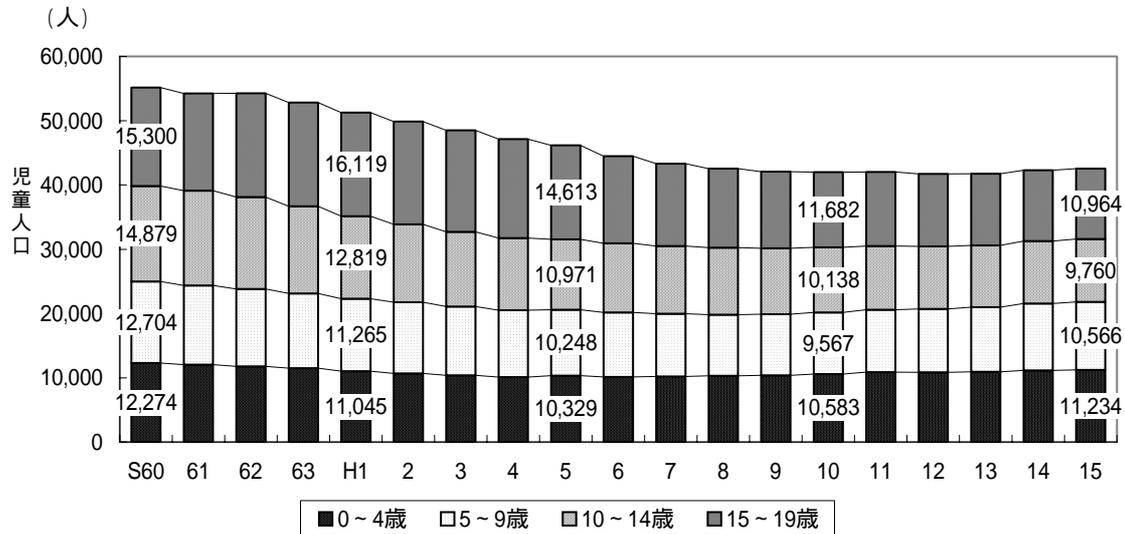
本市の人口は緩やかな増加傾向にあります。都心から 30 分圏内である地理的条件の良さから、近年多くのマンションが建設されており、そのため流入人口が流出人口を上回っています。総人口の中で 14 歳以下の児童人口の占める割合をみると、年々低下の傾向にありますが、これは、65 歳以上の老人人口が増加していることに大きな影響を受けています。

なお、総人口の中でも児童人口だけをみると、全国的には減少傾向にありますが、本市においては 0～4 歳は平成 6 年、5～9 歳は平成 8 年を底に増加傾向にあります。出生数の伸びがそれほど大きくないことを考えると、この若年者の人口増は、小さな子どもを抱えた子育て世帯が数多く市外から流入していることが予想されます。



資料:「府中市統計書」

児童人口の推移



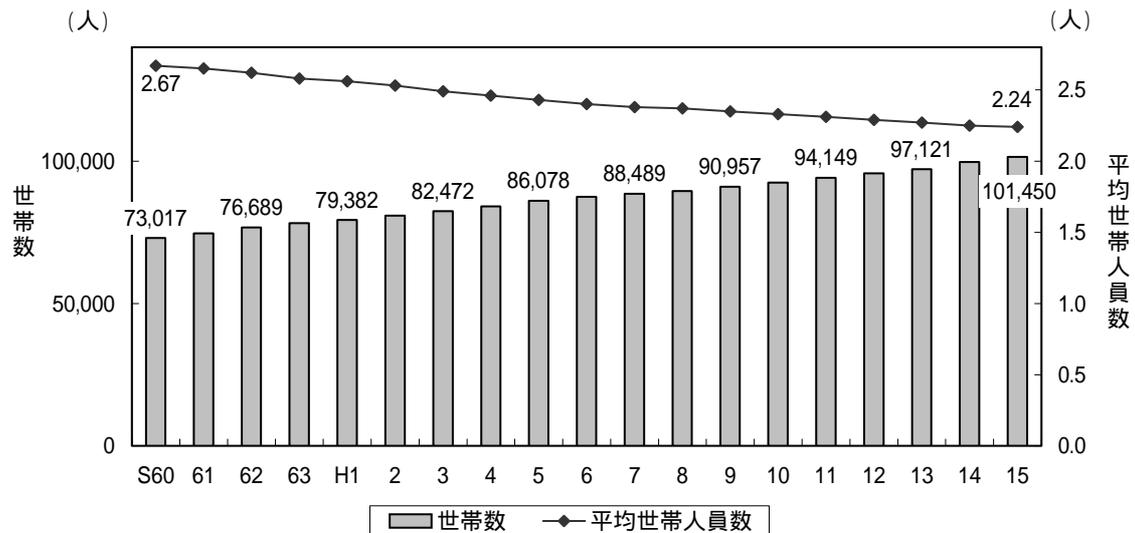
資料:「府中市統計書」

## 2. 核家族化の進展

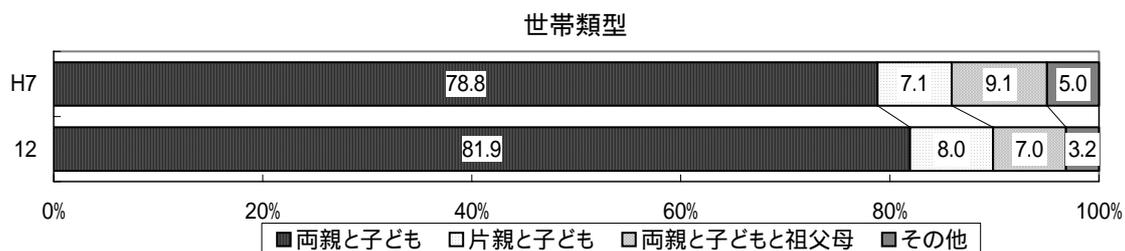
本市における世帯数は、総人口と同様に年々増加傾向にあります。その一方で、一世帯あたりの人員数は年々減少を続けており、これは全国ならびに東京都の数字を大きく下回っています。

なお、住民の世帯構成としては、三世代が同居する世帯の割合は低下傾向にある一方で、両親と子どもだけの世帯、もしくは片親と子どもといったひとり親世帯が増えています。ひとり親家庭が増えている背景には、離婚件数の増加があるといえます。

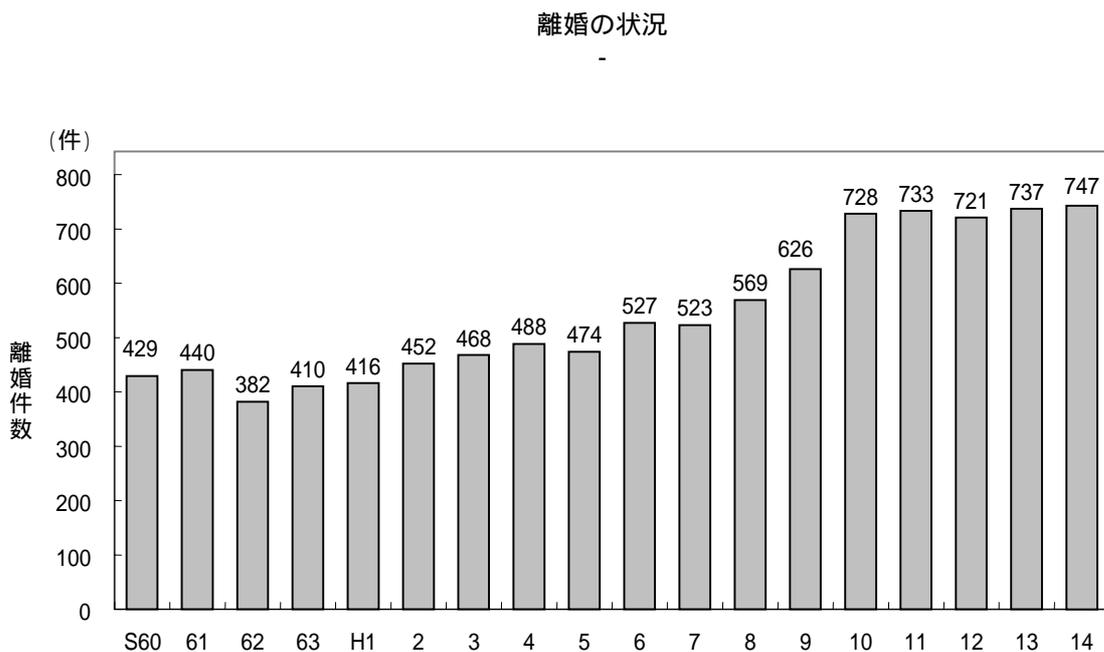
世帯数と平均世帯人員数



資料:「府中市統計書」



資料:総務省「国勢調査」



資料:厚生労働省「人口動態統計」

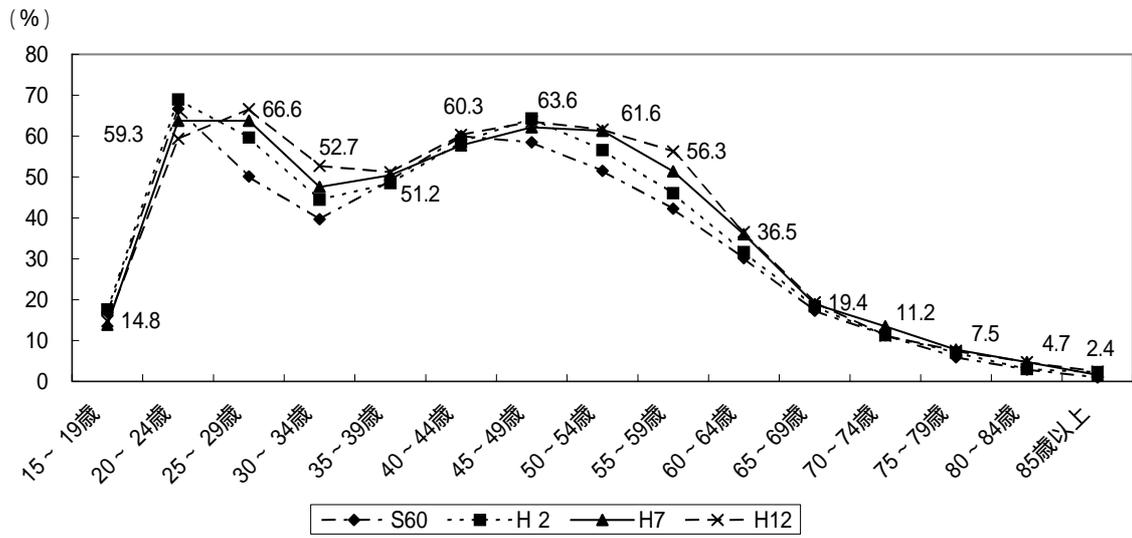
### 3. 日中の子どもの居場所

近年、本市における女性の就業者数は増加傾向にあり、全就業者のうち、4割が女性となっています。しかし子育て期の女性の就業率は依然として5割を若干上回る程度に留まっており、多くの女性が家庭で子どもの面倒をみていることが予想されます。そのため、本市の幼稚園、保育園のいずれかに通っている就学前児童のうち、半数以上が幼稚園に通っています。

なお、児童人口が増えていたり、保育園に入れない待機児童が比較的多いため、本市でも保育園の定員を増やしてきた結果、待機児童の数は減少傾向にありますが、依然として100人を超える数の待機児童が登録されています。

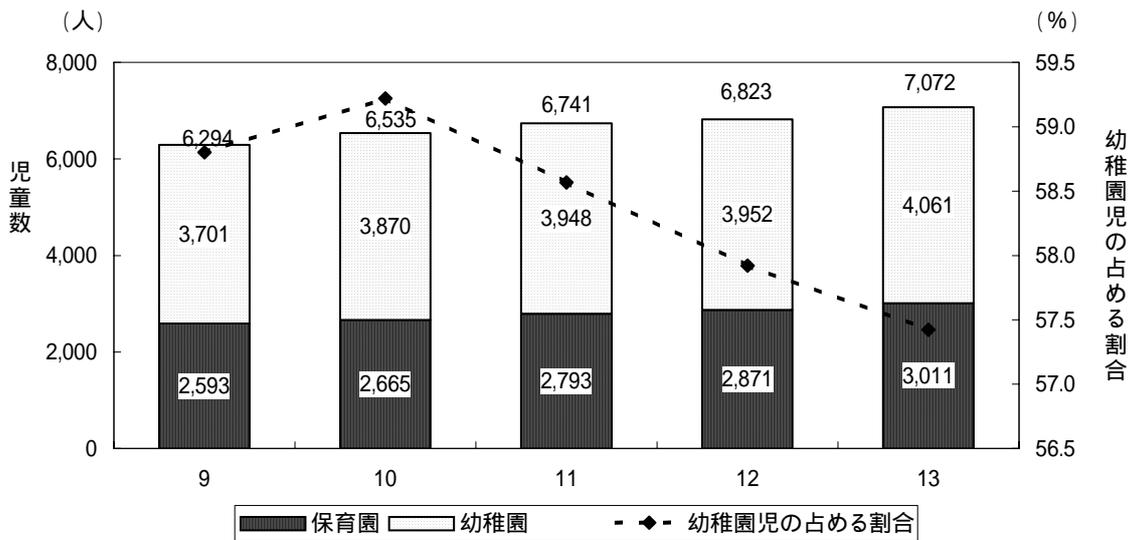
また、小学生に関しても女性の就業率の上昇にともなって学童クラブに通う子どもが年々増えつつあり、小学校1～3年生のうちの4分の1が学童クラブを利用しています。

府中市における年代別女性就業率の推移



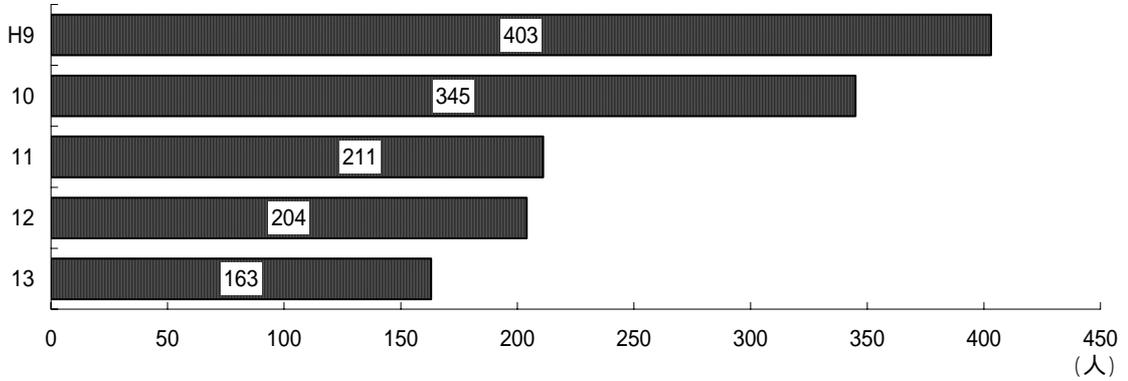
資料: 総務庁「国勢調査」

保育園児、幼稚園児数の推移



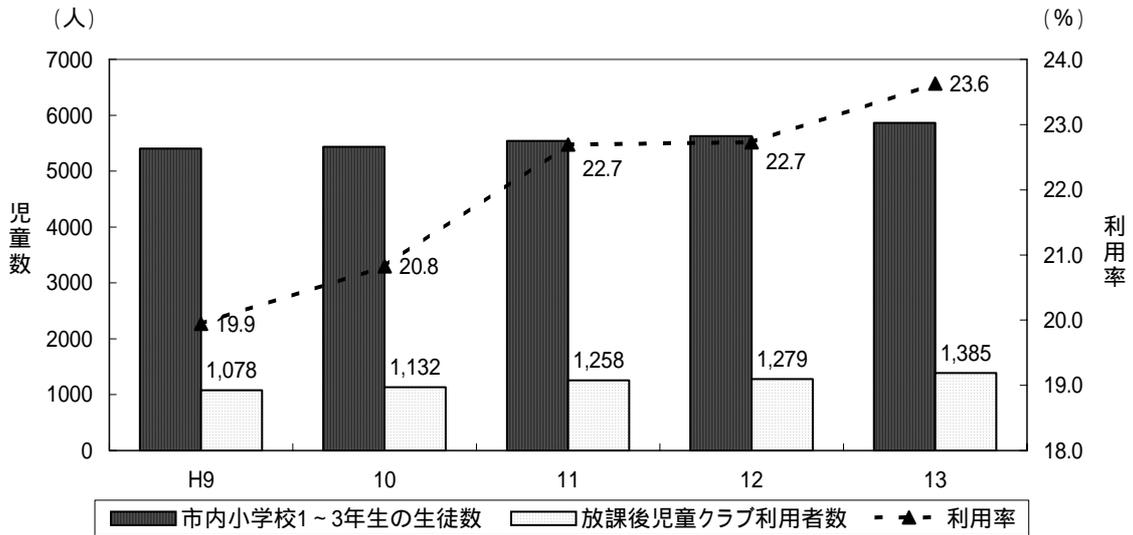
資料: 「府中市統計書」

### 待機児童数の推移



資料:「府中市統計書」

### 学童クラブの利用状況



資料:「事業報告書」